

活動報告

ふれあいリハフェスタ in 西播磨 2018

島本 卓

1. はじめに

私は、10月20日(土)に兵庫県立西播磨リハビリセンターを会場に行われた「ふれあいリハフェスタ in 西播磨 2018」に参加しました。私ごとですが、今年で4年連続の参加となります。

毎年、兵庫頸損連絡会に参加要請の声をかけてくださり、展示ブースまで準備していただいています。今回も感謝の思いを持ちながら、参加報告をします。

2. 移動手段

私が1回目に参加したときは当会のメンバーと一緒に参加していましたが、現地集合だったため電車とバスを乗り継いで一人で会場に向かいました。しかし会場までの山道は長く、恐怖と思える急カーブの連続に癒性は収まりませんでした。

2回目以降からは荷物を運ぶ大役に任命されました。もう恐怖体験もしたくないで、現在は福祉タクシーを利用することで快適に移動しています。みなさんも行かれる際は、介助者と一緒に行かれることをおすすめします。

3. アクシデント

今回、掲示パネルが当日一週間前に破損してしまいました。私が受け取ったころにはもう破損後だったことを書いておきます。受け取った夜に現物を見ると「頭が真っ白に」になりました。その後、何人かの介助者に「直るかな？」と聞いてみましたが、想像していた答えが返ってきました。それでも前日の夜までもがきました。結果、直りませんでした。

最後の手段として、私の後輩に夕方連絡をしました。「何とかします！」と言ってくれ、期待をもってお願いすることにしました。私は安心して寝ることができました。朝になり、後輩からのメールをチェックすると、追跡番号と当日の朝に届くようになっていました。さっそく宅配業者のサイトから、追跡をしました。すると私が住んでいる最寄りの営業所から、すでに出発していた。福祉タ

クシーの出発時間を9時半にしていたので、出発に間に合えばと思い、宅配業者に連絡しました。受け取りさえできれば、会場で取り換え作業をするつもりでいました。宅配担当者から「一時間後になる」と言われて、このまま宅配が到着するのを待つと間に合わないため、会場に向かうことになりました。結局、破損部分を取り外したパネルを掲示していました。現在、パネルは修復完了。

4. 一人の男性

今回、頸髄損傷 C4 の方が家族と一緒にブースに来てくれました。その方の年齢は50代で、この1月で受傷して3年になると言われていました。現在は、家族と一緒に在宅生活をしています。しかし、生活への不安は軽減するどころか、日々不安が大きくなると、ご本人と家族からも言われました。家族から、「この体で、なにができるのか？」と聞かれました。緊急時だけでなく、連絡する手段もない。ただ自宅で水分補給もできなく、家族の帰りを待ち続けている状態であることも教えてくれました。私は、ご本人に「今やってみようか」と聞きました。すると、ご本人の口から「スマホを使いたい」、「パソコンをやりたい」と聞くことができました。そこで私がスマホを使っている様子や環境など、操作している道具についても話すことにしました。話していくうちに、ご本人から「やってみようか」と言ってくれたときは、めちゃくちゃ嬉しかったです。

私の連絡先を伝えて、ご本人と家族が帰られるときに「相談にきてよかった」その一言が聞けたことがよかったです。

5. まとめ

まだまだ多くの当事者が、不安をかかえて生活をしている現状がある。不安をかかえて生活をしている当事者に出会うために、病院との連携が重要だと感じる。私自身の経験を、これからも多くの当事者に向けて発信していきます。